

経営比較分析表（令和6年度決算）

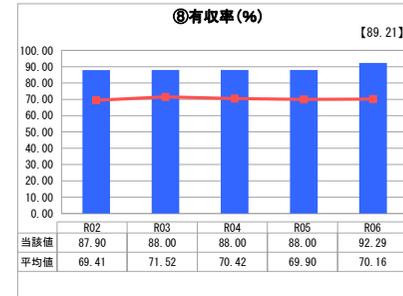
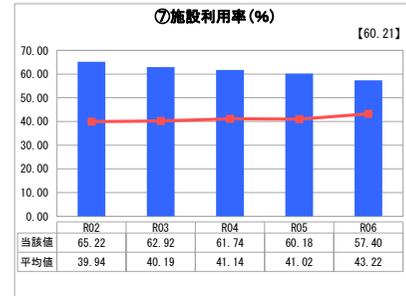
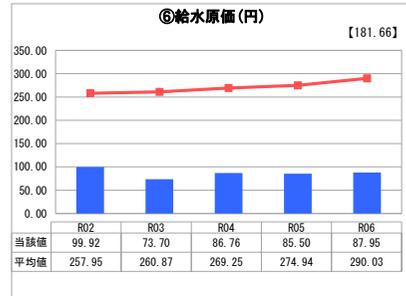
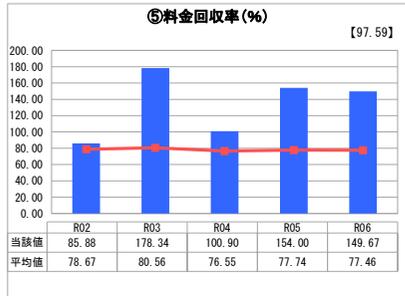
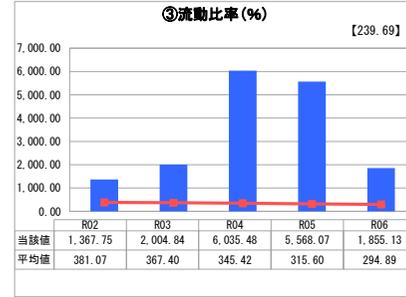
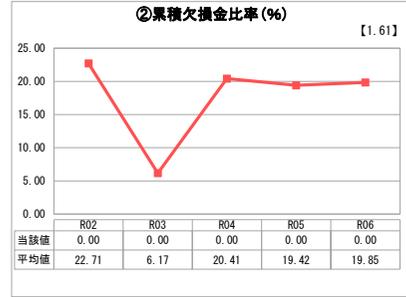
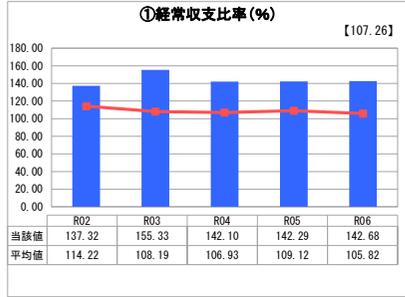
岡山県 和気町

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	84.75	35.99	2,612	

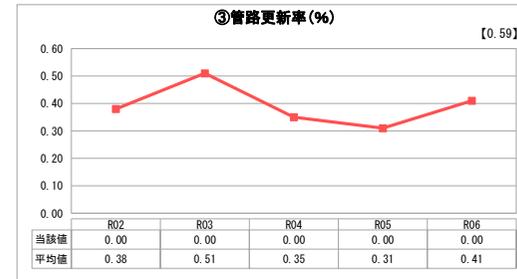
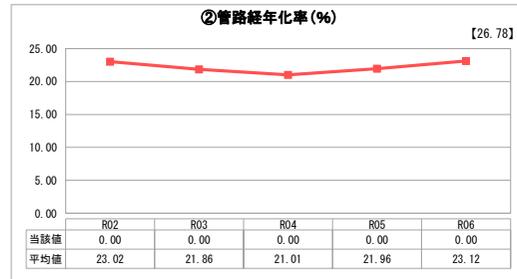
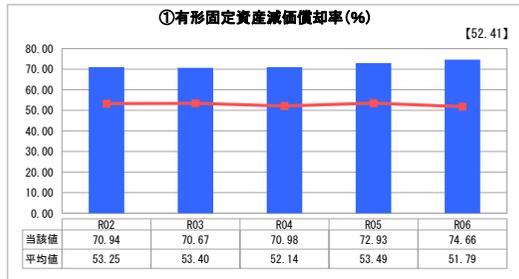
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,871	144.21	89.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,595	4.02	1,143.03

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、人口減による給水人口の減少により給水収益が減少したが、修繕費等が減少したことで、前年度より微増した。流動比率については、現預金の増により、前年度から大幅な減少となった。比率も100%を上回っているため健全性が保たれている。企業債残高対給水収益比率については、令和2年度から起債事業が増加したことが、上昇の要因となった。料金回収率は、概ね横ばいだが、100%を上回っている。給水原価については、令和6年度では長期前受金戻入の減額や有収水量の増加により給水原価が上がった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。施設利用率については、企業への安定した給水により概ね横ばいで推移しているが、人口減に伴い微減少がみられる。有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移しており、漏水等の早期発見早期対応により増加している。今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。管路経年劣化及び管路更新率については、布設年数を踏まえながら、重要となる幹線部分から耐老化への更新を進める必要があるため、優先順位を見定め計画を策定していく。

全体総括

有形固定資産については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

経営比較分析表（令和6年度決算）

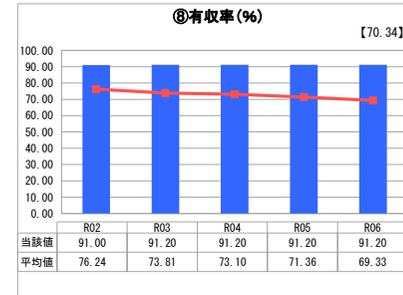
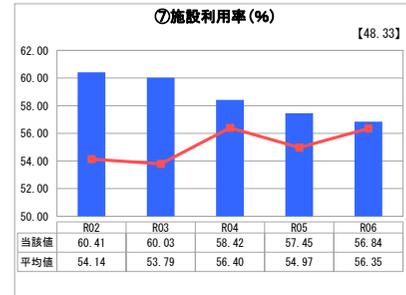
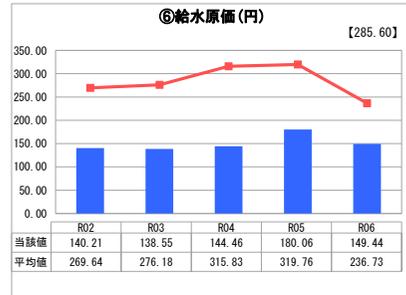
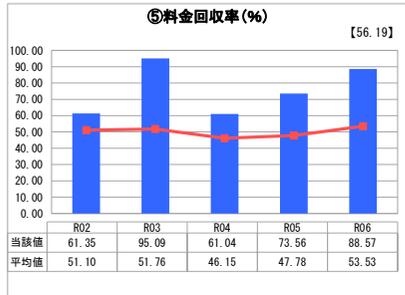
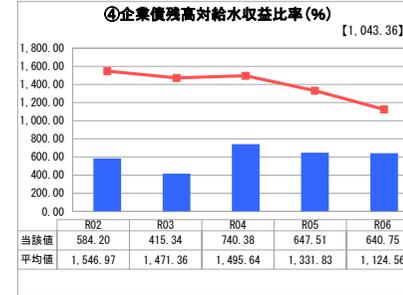
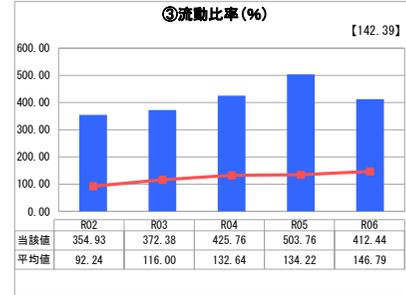
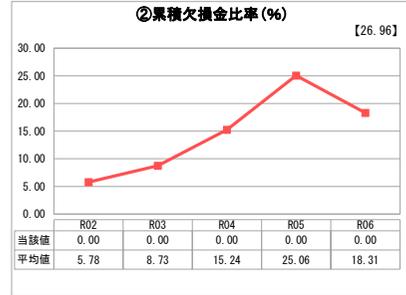
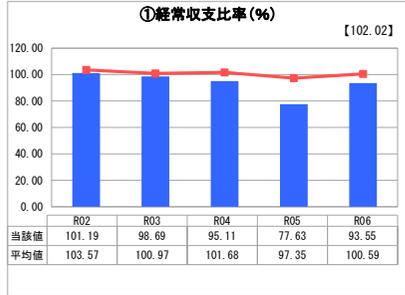
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	56.25	60.24	2,612	

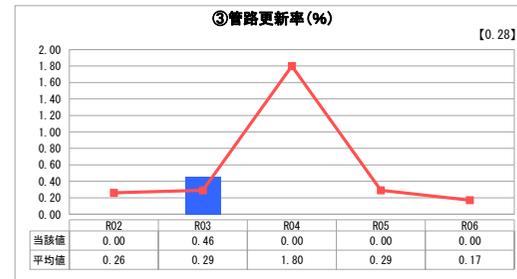
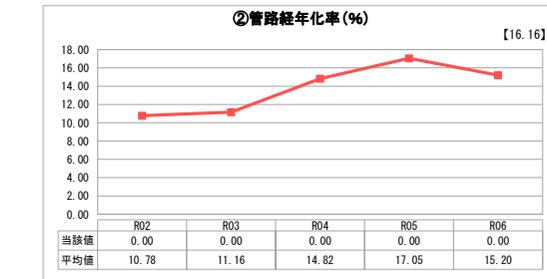
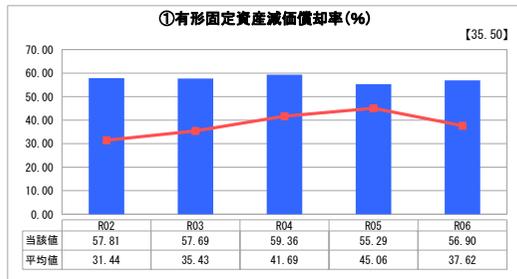
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,871	144.21	89.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,692	27.11	283.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、長期前受金戻入の増額等により増加している。
 流動比率については、前年度から未収金の減額等により減少することになった。現状では、類似団体に比べ高い数値で推移している。
 企業価値高対給水収益比率については、類似団体と比べ少ない傾向にある。
 料金回収率は、給水原価が減少したことにより回収率は増加したが100%を下回っている。
 給水原価については、長期前受金戻入の増加等により給水原価が下がった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。
 施設利用率については、ほぼ横ばいで推移しているが、将来の人口減少等に踏まえ、施設の統廃合等の検討を実施していく。
 有収率については、近年、横ばいで推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。
 管路経年劣化及び管路更新率については、過去数年間平均してみると低水準で推移しているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管渠等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。